

とれいんとれいん

2009. 3. 14

JR東海労神領分会

大切なのは目の前の信号だ！！

最近、神領運輸区では、乗務前の出発点呼の方法が変更されて皆苦勞しています。

点呼において行う「敬礼の形」から「事故掲示などの閲覧確認」「諮問」など乗務前に使う労力は並大抵のものではありません。正直言って点呼が無事終われば、ほっとします。

「全ての掲示の読み上げ確認」「諮問」「信号喚呼」などを行う点呼によって時間がかかり、列車の乗り継ぎ時刻にギリギリとなる場合もあり、焦りがでます。

朝の時間帯には点呼する人が重なり、ますますギリギリになります。

この「点呼での焦り」をもったまま乗務が始まります。

さらには、点呼で当直助役から指摘されると、勤務終了後に管理者の呼び出しが待っています。場合によっては些細なことで時系列等報告書の作成を命じられた人もいるようです。まさに事故を誘発しかねない状態です。

このように感じているのは、私たちだけでしょうか。

この様な点呼の様々な事象が、乗務中に頭によぎっていませんか？点呼は伝達事項を確認し、安全に列車を運行するために行うものであると思います。

今、神領で行われている点呼は、本来のための点呼ではありません。つまり、点呼が本来の点呼でなく、労務管理に使われていると考えます。指摘されない点呼をするために疲れ、時間がなく焦って乗務に就き、勤務明けで呼び出されることを気にしながら乗務する。本末が転倒しています。

だから、私たちはゆったりと余裕を持って乗務につくよう要求します。

私たちにとって一番大切なのはハンドルを握っている今であり、列車の状態監視をしている今なのです。

ベストな心身状態で乗務することを阻害する今の点呼方法には大きな疑問を持たざるを得ません。早急に安全を阻害する点呼やめることを求めます。